

アナログプレイヤーの比較試聴(26)

—モーツアルトを聴く(26)—

1. 始めに

前報(25)に引き続き、アナログプレイヤー3機種 of 比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種 of 試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルト of アナログ盤を使用していきますが、今回は管楽アンサンブルの曲です。

エラート E-1021

モーツアルト クラリネット協奏曲

ジャック・ランスロ (クラリネット)

パルヘット四重奏団

SUPRAPHON HR-1036-S

モーツアルト クラリネット協奏曲

弦楽四重奏曲第 19 番<不協和音>

ウラディミールル・ジーハ (クラリネット)

スメタナ四重奏団

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。また、LINN LP-12 の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを 2ヶ所に適用しています。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

エラート盤は ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と ThorensTD124 では、RIAA、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

SUPRAPHON 盤は ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と ThorensTD124 では、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

エラート盤 of ThorensTD124 の再生では、躍動的で、勢いのある音です。

LINN LP-12 の再生では、TACU-1 に加えてダンパーフレーク of 効果も加わり、繊細な表現に加えて響きの良さも出てきています。

Grrad401 の再生では、多少肌理は粗いですが、響きが豊かで勢いのある音です。

SUPRAPHON 盤 of ThorensTD124 の再生では、モノラル盤でレンジも広くはな

いのですが、クラリネットもスメタナ四重奏団も艶と響きが聴き取れます。
LINN LP-12の再生では、モノラル盤でありながら、TACU-1に加えてダンパー
フレークの効果も加わり、クラリネットの柔らかく膨らみのある表現やスメタナ四
重奏団の4人の奏者の息のあった演奏が浮かび上がってきます。
Grrad401の再生では、音の肌理は多少粗めですが、クラリネットもスメタナ四重
奏団も響きの良さは伝わってきます。

4. まとめ

ThorensTD124とGrrad401の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パー
フォーマンスが確認できましたが、ターンテーブルアキュライザーTACU-1と
LINN LP-12の場合はさらにダンパーフレークの効果もあって、それぞれの盤の特
徴が把握できました。

以上